



果敢に挑戦 みんぱく若手研究者奨励セミナー

のぶた としひろ
信田 敏宏

民博 研究戦略センター

民博では、国内の若手研究者からの共同利用に関するさまざまな要望、意見を確認するため、2006年度より「国立民族学博物館の共同利用に関する若手研究者懇談会」を開催してきた。そして2009年度からは、「みんぱく若手研究者奨励セミナー」と名称を改め、受講者による研究発表のほか、本館の施設案内などを実施している。

二〇一〇年二月二四日から二六日の三日間、みんぱく若手研究者奨励セミナーが実施された。二回目となる今回のテーマは「国境を越える市民社会と人類学」であった。市民社会によるあらたな「つながり」

こんにち、わたしたちは、日々の暮らしのなかで、あるいは毎日のニュースのなかで、NGOやNPOに代表される市民社会の存在を見聞きするようになってきた。また、ペットボトルのキャップを集めることで、あるいはフェアトレードのコーヒーを買うことで、わたしたちは、世界の人びととの「つながり」を意識するようになってきた。そうした「つながり」は、国家や企業によって仕掛けられた「つながり」とは異なり、市民社会の進展によってもたらされたあらたな「つながり」のように思われる。日本に暮らすわたしたちにとって、市民社会はもはや当たり前存在となりつつあるが、日本に限らず世界各地でも少なからず同じような現象が起きている。例えば、東南アジアでは、ある村に、日本のNGOがやってきて、井戸を掘ったり、学校を建てたり、古着を提供したりしてくれるのは、それほど珍しいことではなくなっている。

市民社会への人類的アプローチ

こうした背景には、NGO・NPOや市民社会への特徴は、受講生にテーマに関連した発表をおこなってもらい、そのなかから優秀発表者を選んで表彰するという制度を設けていることである。表彰制度には賛否両論あるが、セミナーの雰囲気を引き締めるうえでは効果的であろう。表彰制度は受講者たちが切磋琢磨し、発表の内容や方法を工夫し、討論にも積極的に参加する仕掛けとして有効であったように思う。

セミナーは、宇田川妙子准教授によって「イタリアの『第三セクター』現象——『市民社会』の人類学的考察の試み」、筆者によって「先住民運動のエスノグラフィ——オラン・アスリのフィールドワークから」と題した教員講演から始まった。その後、一五名の受講者による発表（もち時間四五分）が三日間にわたって続いた。研究の対象としている地域もヨーロッパ、アジア、アフリカ、アメリカとさまざま、個々の発表テーマも「市民社会」を正面から論じたものから、音楽や歴史の問題に絡めて論じたものまで、まさに多種多様であった。

今回、「みんぱく若手セミナー賞」を受賞した二名の発表は、それぞれ、北欧フィンランドにおける福祉の問題を批判的に論じたものと、モンゴルの市民参加型NGOの活動をコミュニティと公共性の観点から論じたものであった。総合討論では、「市民



2008年9月、マレーシアの首都クアラ・ Lumpur でおこなわれた先住民NGOによるデモ行進。デモは警察の介入によって中断した。「NO JUSTICE NO FUTURE」と書かれたプラカードが印象的

民運動、さらには宗教ネットワークなどで構成される市民社会とそのネットワークが、東西冷戦終結後、グローバル化の波とともに国境を越え、地球規模で展開するようになったことが関係している。二一世紀に入ると、市民社会のグローバルな展開はさらに広がりを見せ、文化人類学や民族学が研究対象とする周辺地域にまでその影響がおよんできている。その結果、こんにちの人類学者は、フィールドの傍らでNGOや宗

先端的テーマに挑戦する場として

文化人類学の分野では時代の先端をいくテーマであったこともあり、まだまだ議論が未熟な部分も感じられたが、受講者たちはそれぞれにこの難しいテーマに果敢に挑戦していたように思う。市民社会がこれからはますます活発化していくなか、今回のセミナーを契機にあらたな研究プロジェクトとして今後も議論を深めていく必要性を感じた。本セミナーが若手研究者にとって今後の研究に生かしていくための議論の場となることを願い、今年も引き続き実施する予定である。

みんぱく若手研究者奨励セミナー

「国境を越える市民社会と人類学」

2010年11月24日～26日

《優秀発表者》

・高橋 絵里香（民博 外来研究員／日本学術振興会特別研究員（PD））

「在宅」の思想——フィンランド・西南部の地域福祉にみる「社会」の重要性について

・西垣 有（大阪大学大学院博士後期課程）

「コミュニティの公共性——モンゴルにおける市民参加型NGOの活動から」



3日間にわたって開催されたみんぱく若手研究者奨励セミナーの様子。須藤健一館長による挨拶の場面

緊張感ただようセミナー

本セミナーは文化人類学および関連分野の大学院生やPD（ポストドクター）の若手研究者を対象に広く受講生を募り、書類審査をおこなったうえで、受講生を決定

緊張感ただようセミナー
本セミナーは文化人類学および関連分野の大学院生やPD（ポストドクター）の若手研究者を対象に広く受講生を募り、書類審査をおこなったうえで、受講生を決定